

奉獻品

沖ノ島で発見された製品の数量は驚くほど多く、島内の至る所の祭場から 8 万点以上の製品が発掘されました。その多くは現在、宗像大社の神宝館で展示されています。

古代の宝物

沖ノ島で発見された製品の中には、宝石から彫られたコンマの形状をした数珠玉(勾玉)があります。日本最古の歴史書に記録されている創造神話によると、太陽神・天照大神は彼女の孫息子・瓊瓊杵尊を日本を治めるために遣わした際、鏡と剣のほか、勾玉(しばしば「宝石」とも表現される)を授けました。彼は皇室の始祖となり、三種の神器(鏡・勾玉・剣)は天皇の神性の象徴として崇められています。三種の神器は決して一般公開されませんが、沖ノ島で発見されたものと似ていると考えられます。

祭祀の変遷

沖ノ島で発見された最古の最も精巧な製品の一部は、中国や朝鮮半島から持ち込まれたもので、アジアの他の地域との初期の貿易関係を示しています。より後期(8 世紀から 9 世紀)の品々はよりシンプルであり国内で制作されました。古くは神々に捧げられていた輸入品とは対照的に、人間や舟や馬の形に彫られた滑石の品が多いことから、祭祀の性質が変化したことがうかがえます。